

(別紙2-1)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年12月7日

【評価実施概要】

事業所番号	4270400759		
法人名	社会福祉法人 祥仁会		
事業所名	グループホーム貝津		
所在地	長崎県諫早市貝津町2239-2 (電話) 0957-25-4100		
評価機関名	特定非営利活動法人 医療・福祉ネットワークせいわ		
所在地	佐賀県佐賀市木原二丁目6番5号		
訪問調査日	2007年11月2日	評価確定日	2007年12月17日

【情報提供票より】 (19年 10月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)15年 4月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 8人, 非常勤 1人, 常勤換算 8人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨	造り
	1階建ての	1～1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	9,000+実費 円
敷金	有(円)	(無)	
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	150 円	昼食 250 円
	夕食	400 円	おやつ - 円
	または1日当たり		800 円

(4) 利用者の概要 (10月 1日現在)

利用者人数	9名	男性 1名	女性 8名
要介護1	5名	要介護2	2名
要介護3	1名	要介護4	1名
要介護5	—名	要支援2	—名
年齢	平均 89.8歳	最低 80歳	最高 96歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	西諫早病院	みぞこし歯科医院
---------	-------	----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、諫早IC近くの国道に面した市街地に位置しています。静かさと美観が保たれたホーム内は、明るく家庭的な雰囲気が漂っており、居室には沢山のなじみの品が持ち込まれています。ホーム独自の理念はスタッフに浸透しており、ご利用者とスタッフの笑顔が印象的で、大きな施設とは一味違ったホームの色が感じられます。管理者を含むスタッフ間のコミュニケーションも良好で、チームワークのとれたケアが展開されています。社会福祉法人が運営母体で、同一法人内の施設等との連携により、緊急時対応や健康管理などの協力体制も充足しています。ご利用者の生活習慣等を活かした支援など、その人らしい暮らしの実現を目指すというホームです。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価結果を踏まえた改善については検討中になっています。 課題について検討された形跡は残っていますが、まだ、改善には至っていません。改善課題を明確にされ、優先順位を決めて取り組まれることを期待します。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 評価の意義はスタッフに浸透しています。 自己評価は管理者を含むスタッフ全員で取り組まれ、評価制度の意義がスタッフ全体に浸透しています。改善に向けた姿勢から今後の取り組みに期待できます。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 開催頻度の見直しと、これからの活動に期待します。 開催回数は現状一回のみですが、積極的な意見交換が議事録により確認できます。開催頻度や会議メンバーによる課題の共有化など、今後の積極的な取り組みに期待します。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) ご家族の意見の聴取に努め、運営に反映されることを期待します。 意見箱の設置や家族会の開催など、ご家族の意見を聴取するよう努められていますが、その実績については確認できません。今後もご家族の意見の聴取に努め、ホームの運営に反映されるよう、運営推進会議を含めた積極的な取り組みを期待します。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域との交流については目的を明確にし取り組まれています。 地域行事への参加や自治会への加入など、地域の中のホームという考えのもと積極的に取り組まれています。

(別紙2-2)

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「家庭的な雰囲気の中で…」といった文言から始まるホーム独自の理念を掲げ、実践に向けた取り組みが展開されています。	○	地域密着型サービスの役割について再考し、地域との交流等を理念に反映させることが求められます。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は掲示され、日々及びスタッフ会議時に周知が行われています。スタッフにも十分浸透していることが、ヒアリングやご利用者への接し方で確認できます。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	年に2回の地域の美化運動に参加され、自治会にも加入されています。年度末の自治総会への参加や回覧板の回覧など、地域の一員としての積極的な係わりが見受けられます。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価については全スタッフで取り組まれており、評価制度の意義についてもスタッフに浸透しています。しかし、前回の外部評価の結果を活かした、改善活動は保留となっています。	○	改善計画シートを活用し、課題及び優先順位を明確にしたうえでの取り組みが求められます。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、まだ1回の開催のみで、会議議事録では、ホームを知っていただくことや質疑等、積極的な意見交換が確認できません。	○	まだ会議の実績は1回のみであり、開催頻度について再考が求められます。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村との係わりについて具体的な事例等は確認できませんでした。	○	運営推進会議を活かし、市役所との連携強化に取り組まれることを推奨します。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	介護計画書の同意状況は確認できます。ご利用者の状況報告は面会時に行われており、状況の変化については電話にて報告、相談が行われているとのことです。また、毎月の請求書に連絡事項やお礼状などを同封し、ホーム便りも毎月発行されています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置されており、年1回の家族会も行われていますが、具体的な意見等の運営への反映は確認できません。	○	ご家族の意見を聴取する仕組みの検討を推奨します。ご家族との協働の機会など、気軽に意見を述べていただける環境づくりについて、スタッフで話し合いを行うことから始められては如何でしょうか。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者を含めたスタッフ間のコミュニケーションが良好で、退職者も少ないようです。ホームスタッフの人事異動は無く、離職者や入職者が生じた場合は、ご利用者及びご家族に報告されているとのことです。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム連絡協議会やその他研修会への参加実績があり、研修報告書や伝達研修による共有の仕組みが確認できます。しかし、研修計画等は確認できません。	○	今後は、スタッフ育成の面から、スタッフ一人ひとりの研修履歴等を把握した上での教育計画作成についてご検討下さい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月1回のグループホーム連絡協議会に一部のスタッフが参加されているようですが、その他の取り組みは確認できません。	○	グループホーム間の相互見学など積極的な取り組みにより、質の向上やスタッフのスキルアップにつなげる活動もご検討下さい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホームに入居される前に入所施設を訪問し、ご本人との面会を行われています。ご本人やご家族の状況に応じてではありますが、ホームの見学や食事会（バイキング）にも招待されています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理、昔話、子育てなど、昔ながらの知恵を活かしたアドバイスを頂くことは多々あるとのこと。また、ご利用者から労いの言葉もよく頂くとのこと。訪問時にはご利用者に食事を褒めて頂き素直に喜ばれるスタッフの表情がありました。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、声かけはもちろん、ご利用者のしぐさからも意向の把握に努められています。把握したことは申し送りノートにより共有されています。	○	日々の気づきは断片的に記録するに留まらず、積み上げられ介護計画の見直しなどに反映される仕組みを構築する必要があります。また、意向を聴取した際に随時介護計画に反映させられる仕組みの構築についてご検討下さい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご家族の意見、日々聴取したご利用者の情報及びスタッフの気づきなどについて、計画作成担当者及び担当で検討され介護計画が策定されています。また、ご家族による介護計画書の同意についても確認できます。しかし、介護計画説明時のご家族の意見の反映は次の見直し時になっています。	○	介護計画に対するご家族の意見は、随時検討され、必要に応じて計画に反映されることが求められます。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	原則として3ヵ月に一度、介護計画についての評価、見直しが行われています。随時の見直しについては、ご利用者の状態が落ち着かれていますので生じていないとのこと。	○	定期的見直しのほか、日々の気づきを介護計画に反映させる仕組みが必要です。ご利用者の状態が落ち着かれています中でも、些細な変化やスタッフの気づきにより計画の変更が必要となる場合があります。もちろん、必要に応じてではありますが、介護計画への追記や削除などを含む随時の見直しについてご検討下さい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご利用者、ご家族等の要望や状況に応じて、通院や敬老会への参加、お墓参りなどの支援が行われています。美容室へスタッフが同行する支援も実施されています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は関連先の病院が中心となっていますが、ご利用者等の希望により選定されています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期対応は基本的に行わない方針としてありますが、重度化については入居時にご家族等と話し合いをもたれています。しかしながら、ご利用者等の意向についての記録は確認できません。	○	入居の際、ご利用者等の意向を確認し記録に残す必要があります。また、状況に応じて話し合いを設け記録に残すようご検討下さい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉遣いや対応などご利用者のプライドに対する配慮は見受けられます。個人情報の漏洩防止などへの取り組みもうかがえます。個人情報保護法の勉強会も法人内で実施されたものに参加されています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはありますが、声かけを積極的に行いご利用者の意向を踏まえた対応を心掛けてあります。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事に関しては、ご利用者が食材の買い物から係わられているとのことです。食事中は、スタッフが同じ食事を同じテーブルで食し、支援が必要なご利用者対応も行われています。また、菜園で取れた野菜も取り入れているとのことです。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、ご利用者一人につき2～3日に一回程度とのことで、ご利用者の希望に添った温度や入浴時間への配慮が行われています。また、入浴介助はご利用者の意向を踏まえた上で異性介助となる場合もあるとのことです。	○	異性介助については、ご利用者のみでなく、ご家族の心理面も踏まえて再検討されることを推奨します。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ご利用者の生活歴や生活習慣、職業歴などをバックグラウンドシートに取りまとめ、その情報を活かした支援が展開されています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節的な配慮のもと、週に一回程度、本を買いに行ったり、食材の買い物に行ったり、裏の畑での作業を行ったりと、外出への支援が行われています。美容室へも同行されており、車椅子での支援も行われています。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠されることなく、ご利用者の外出は、癖や傾向を把握し見守りにより対応されています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	自主訓練は利用者と共に2カ月に1～2回実施されており、自治会等にも災害時の協力を依頼されています。消防署の指導の下、避難訓練や消火器の使い方の指導も受けられています。食料品等の備蓄は台風情報に応じて準備されているとのこと。	○	食料品等の備蓄や必要品の準備など、様々な災害を想定し常備することについて検討されることを推奨します。また、電気・水道等の供給者連絡先一覧表の整備もご検討下さい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量については個別に対応されています。食事の量や形態についての個別対応も見受けられます。献立はご利用者の希望をもとにスタッフにより作成されています。	○	献立については、栄養士などの専門家のチェックを定期的に受けることが求められます。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースは全体的に明るく、壁には、手作りのカレンダーや干支の貼り絵が飾られています。ご利用者が、いつでも楽しめるようお手玉なども置かれています。ご利用者はそれぞれの居場所で思い思いに過ごされています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	持ち込み品には、特に制限を設けられておらず、ご家族と相談され馴染みのものを持ってきて頂くよう働きかけも行われているとの事です。その成果により、なじみの品の持ち込みも多く、居室はそれぞれ個性的な空間になっています。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票を添付すること。